

化学生物総合管理学会・社会技術革新学会 春季討論集会(2011)

春季討論集会はテーマを設定し、問題提起にとどまらず分科会において議論を深めることをねらいとしています。今年は特別講演会と4つのテーマによる討論を企画し、化学生物総合管理学会と社会技術革新学会の共同開催で行います。

日時：3月8日(火) 10:00～18:00 (受付開始 9:30)

会場：学術総合センター2階 (東京都千代田区一ツ橋2-1-2)

地下鉄 神保町駅 A8 出口徒歩3分 竹橋駅 1b 出口徒歩4分

特別講演会：「日本で創出されたリチウムイオン2次電池が世界を変える」

リチウムイオン2次電池(LIB)の用途は、オーディオ・ビジュアル機器を嚆矢とし、パソコン、携帯電話用へと拡大し、いまでは、モバイル機器にとって必須のデバイスとなっている。「ケータイも電池なければ唯の箱」と言われる所以である。さらに、昨今は電動自動車用電源や定置型電池としての検討も進み、新たな用途の拡大に伴い、LIBへの要求や課題が多岐に渡ってきている。こうしたLIB創出には、R&Dマネジメントに関しても周辺との軋轢を超えるために大きな努力を要した。

そこで、マテリアル・サイエンスの理論を現実的な技術に展開することによって、LIBを世界で初めて開発することに成功した西美緒(ニシヨシオ)、永井愛作(ナガイアイサク)の両氏に、こうした経験を踏まえて、LIB実用化に至るまでに遭遇した課題を、技術的なものにとどまらず、究開発管理上の問題にも視点を置いて紹介して頂き、新規ビジネス創出に至るまでの課題やその克服方法について論じて頂く。

講演 (10:00-11:30) 西 美緒氏

「リチウムイオン2次電池の事業化に至る秘話から将来を探る」

講演 (11:30-12:30) 永井 愛作氏

「リチウムイオン2次電池の性能を支える材料の実業化の経緯から今後の課題を探る」

討論集会：(13:15-18:00)

最初に各コーディネーターからテーマについて問題提起を行い、その後分科会に分かれて討論を行います。

テーマA) 化学物質のリスク評価に関する信頼性と効率的な推進体制を考える

テーマB) プロドライバーの過重な働き方を考える

テーマC) 消費生活用製品の事故情報をどう活かすか

テーマD) ポリシー・イノベーションの概念の検証 - リチウムイオン2次電池の事例を含めて -
(詳細は次のページ)

討論集会終了後、18:00から意見交換会を行います。

詳しくは、学会ホームページの春季討論集会開催案内欄をご覧ください。

化学生物総合管理学会 HP <http://www.cbims.net> 社会技術革新学会 HP <http://www.s-innovation.org>

会場までの地図も掲載しております。

参加登録：[事前登録制] 両学会の会員以外の方も参加歓迎

(注) 学会員優先、最終の分科会まで出席予定の方が優先となりますのでご了承下さい。
会員外の方は1,000円負担。(意見交換会費用は会員、非会員ともに2,000円。)

参加申込み：以下を明記のうえ、E-mailにてお申し込み下さい。後日、参加証をお送ります。

参加者氏名、所属(勤務先など)、参加予定分科会(A,B,C,D)

意見交換会参加有無

cb-jim2@cbims.net (化学生物総合管理学会) 又は、jim2@s-innovation.org (社会技術革新学会)

主催：化学生物総合管理学会、社会技術革新学会

TEL: 03-5978-5096 FAX: 03-5978-5096

《討論集会のテーマ概要》

テーマA	化学物質のリスク評価に関する信頼性と効率的な推進体制を考える コーディネーター 三浦 千明 (化学生物総合管理学会会員)
リスクベースでの化学物質管理の推進を目指して化学物質審査規制法の規定に沿って化学物質のリスク評価が実施されようとしている。このリスク評価書の整備と行政への応用に際しては、1)速やかな評価の実施、2)評価の科学的精度と信頼性の確保(納得できる内容)、3)結果とそれに基づく対応内容の透明性、4)情報公開などさまざまな観点からの課題も指摘されている。現実的には製品評価技術基盤機構(NITE)による指針の整備や日本化学工業協会のプロジェクト(JIPS プロジェクト)などが進められている。上記の課題に対処するには内外の既存の評価書作成の経験を活かす部分がある場合によっては対象物質に応じた新たな手法の導入が必要となる可能性なども考えられる。また、優先評価化学物質に留まらない上市(使用)されている多くの物質について評価書を作成し、整備するためには官民の知恵の共有と連携の更なる活性化も必要となろう。それによって目標の達成のための評価書の信頼性が確保、効率的な評価の実施、相互の評価技術のブラッシュアップや人材の確保を期待される。これらの諸点についての意見交換や提案事項を討論する。	

テーマB	プロドライバーの過重な働き方を考える コーディネーター 鈴木 一弥 (労働科学研究所)
プロドライバーが休憩・休息不足のまま長時間の運転を続けて事故に至る「過労運転」が問題となっている。柔軟で利便性がある一方で、無理がきき過重な負担ともなりやすい自動車運転作業が日本の貨物輸送を支えている。多くの人が低いコストでその恩恵を受けている。安全管理、健康管理の体制を築くことの難しい中小・零細企業が多いのも特徴である。輸送の時間や場所に関して顧客の厳しい要求に対応せざるを得ない場合もある。遠隔地やさまざまな環境での作業のため、安全衛生管理にも難しい面がある。こうした厳しい条件、制約をどのようにして緩和していくのか、こうした条件下でどのように道路の安全と運転者の安全・健康を守るかは緊急の課題である。トラックドライバーの過労防止に関する議論を通じてプロドライバーの働き方の改善方策を考える。	

テーマC	消費生活用製品の事故情報をどう活かすか コーディネーター 長田 敏 (製品評価技術基盤機構)、 佐野 真理子 (主婦連合会)
近年、消費生活用製品の安全性が大きく注目を集めている。種々の製品事故が顕在化し、これを受けて、消費生活用製品安全法の2度にわたる改正が行われる等、製品安全政策の見直しが行われた。また、2009年9月1日には事故情報等を一元的に扱うため消費者庁が設立された。以上の状況下で、事業者は消費生活用製品の事故防止対策をなお一層行うことが不可欠となっている。 消費生活用製品の安全対策を考える上で、製品事故情報を見逃すわけにはいかない。事故情報を分析すると、製品に起因する事故の多い製品、誤使用事故の多い製品、事故件数の多い製品、死亡・重傷事故の多い製品、リスクの高い製品などを知ることができ、さらには事故原因などを分析することができる。 独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)もそうした事故情報の提供機関のひとつである。NITEが提供している情報は、インターネットでだれでも自由に利用することができる。 事故情報をどう生かすかについて事業者が対応すべき(1)安全設計(リスクの低減方法)、(2)リスクアセスメント導入、(3)社内(相談窓口、設計担当、営業担当、経営者)の連携について、具体的に掘り下げて討論するとともに、消費者に求められる課題についても討論する。	

テーマD	ポリシー・イノベーション概念の検証 - リチウムイオン2次電池の事例を含めて - コーディネーター 山田 一仁 (お茶の水女子大学)、須藤 繁 (国際開発センター) 西 美緒、永井 愛作
近年、日本においてイノベーションに関する議論が盛んに行われているが、プロセス・イノベーションやプロダクト・イノベーションといった技術的視点から論じられることが多い。しかしながら、80年代に始まり90年代を経て現在に至るここ30年の日本の停滞は、これらのイノベーションの成否が主たる要因であるというよりは、経営現場におけるイノベーション、すなわちポリシー・イノベーションが果たされていないことに因るところが大きい。 そこで、多様な産業分野の企業の事業展開におけるイノベーション事例を個々に取り上げながら、ポリシー・イノベーションを含むイノベーションという概念の整理や各々のイノベーション同士の関連性を再検証するとともに、これら概念の様々な分野への応用を試み、付加価値を生み出すイノベーションを導くための秘訣や課題を明らかにすべく討論を試みる。 特別講演会で語られるリチウムイオン2次電池に関する事例についても合わせて論議する。	